

同窓會々報

昭和拾四年度同窓會役員左の如し。

會長	院長	望月日謙 祝下
副會長	教頭	遠藤是妙 先生
庶務部	部長	鹽田義遜 先生
會計部	幹事	田村啓孝 君
	部長	中條是明 先生
辯論部	幹事	鈴木寛善 君
	部長	鈴木幹事 應召 後八月以降 天ヶ瀬寛甲 君
	幹事	松木本興 先生
	部長	佐野海山 君
	幹事	酒井圓通 君
文學部	部長	今村是龍 先生
	幹事	杉山寛淳 君
	部長	中込義康 君
運動部	部長	灘上惠教 先生
	幹事	竹谷榮靜 君
購買部	部長	福島義孝 先生
	幹事	上田玄忠 君
	助手	井上龍榮 君

… 幹事の辭 …

本年度同窓會の陣容は、如上の人員を以て決定せられた。會務執行の火線に立つた我等幹事一同は、孰れも非才無能にして其の器ではないが、唯愛校の一念に奮起して、茲に過分の大任遂行を決意したのであつた。

光輝ある本會の發展の成否は、之れが機關運用の如何にかゝり、該當幹事の努力如何は、本會史の一段を精彩陸離たらしめ或は空虚ならしめるものであつて、此處に思ひを致す時、我等の責務の余りにも重且つ大なるを痛感せざるを得ないのである。あらゆる困苦も犠牲も忍受して、爲校爲會の盡力に粉骨碎身するは本より期する處であるが、光榮の重責を完ふして、本會の向上發展を實現するは容易ならざる難事であつて、我等は宗祖の御加被を仰ぐと共に異体同心相互協力を誓約し、以て多端なる各々の部門に、雄々しい活動の第一歩を踏み出したのであつた。

其の後多少幹事の異動はあつたが、益々強固なる意志の下に結束し、會務は濫滞無く遂行され、多くの事績をあげつ、あるは喜ぶべきことである。

これ等詳細なる報道は措いて吾人は此處に感想の一端を述べて見よう。支那事變の洗禮によつて混沌たる我が思想界は統一され、埋れて居た日本精神がこゝに力強く擡頭した。それは優秀なる大和民族の思想の温床に古くより培はれ、激しては奔流

岩を嚼む如く、和みては朝日に匂ふ櫻花の如く種々に萬化變現して光輝比類無き三千年の歴史を造り上げたのである。實に日本精神こそ世紀の羅針、人類の指導原理にして、建國以來の理想たる八紘一字の實現は正しく之れによるものである。日本精神の伸暢する處必ず正義を生じ、飽くまでも暗雲を掃滅し、邪惡を破壊して理想郷を建設せずにはおかない。

然らば日本精神とは如何にと云ふに、智仁勇の三徳を以て重要屬性とする處の不滅の根本思想である。之れを宗祖の御人格に就いて見るに、その生涯は日本精神の体现そのものである。

末法淺季の雜亂極りなき邪法の迷雲を排して、釋尊の本懷たる眞如の月を觀得されたるはこれ日本第一の智慧であり、一切衆生の苦惱を御自身一人の上の苦惱として正法を弘通し、救済の大慈を垂れられたるはこれ仁心であり、時の爲政者執權をも孤島の王と罵りて、斷罪流謫等の重疊たる迫害にも屈伏せず、遂に自己の大信念を貫徹されたるはこれ勇氣である。

即ち我が祖の全人格そのものが日本精神の權化である。

西溪御草庵に於ける九ヶ年の御垂教は稍下りて西谷檀林の講説となり、法水脈々として傳へられて六百數十年、此處に祖山教學の殿堂の發展を見たのである。されば我等祖山學徒こそ、正に宗祖の魂魄の相傳者である。即ち法華經の眞髓は即宗祖の魂魄、宗祖の魂魄は即我等胸中の一念であらねばならぬ。宗祖の御慈愛に抱かれ乍ら行學の二道に精進せる我々學徒の將來には、佛使と云ふ大任が課せられて居る。我等は自己の使命を的

確に認識し、自重自誠して自分の達成に邁進せねばならぬ。然してその前途には幾多の障害が横たはり、之れを突破して初志貫徹を果たすには智仁勇の三徳に依據することを必要とする。我等は自分の貫徹を以て理想實現の極地とし、理想實現の助成を以て本會の本分とするのである。實に本會の存在意義は此處にある。

本年度も既に終りに臨み、會務も大過無く大半を果し、尙着々として遂行されつゝあるが、これ偏に會長親下を始め各部長諸先生並びに先輩諸師、會員諸兄等の御後援に依るものにして全く我等一同の微力の能く致す處に非ず。茲に甚深の謝意を捧げる次第である。(田村生記)

各部記事

◆庶務部

幹事 田村 啓孝

四月廿一日 上掲の如く選出されたる吾等一同は各部の事務引續ぎに忙殺されつゝ、舊新幹事一体となり、萬端の準備をなしつゝ、定期大會を待つ。

四月廿七日 學院教授今村先生正慶寺に晋山せられ、下邨庶務幹事その式に列し祝意を表す。

四月廿九日 先輩葛原榮靜師晋山せられ祝電を發す。(以上の